



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/5 (月)				こどもの日			
5/6 (火)				昭和の日			米：FOMC（1日目） 米：貿易収支（3月） 欧：ユーロ圏サービス業PMI（4月）
5/7 (水)	+ 1,300	▲ 2,200	▲ 900	国庫短期証券発行償還（3M）	国債補完供給 + 1,800		米：FOMC（2日目） パウエルFRB議長の記者会見 欧：ユーロ圏小売売上高（3月）
5/8 (木)	+ 2,000	+ 3,000	+ 5,000				日：日銀金融政策決定会合議事要旨（3月18・19日分）
5/9 (金)	+ 2,000	▲ 28,000	▲ 26,000	国債発行（10年）			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆8,400億円増加の543兆3,200億円から始まった。その後、国債発行償還や消費税・法人税・保険料の揚げ等の要因により増減し、2日は537兆2,400億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.476%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.478%～0.650%のレンジ、1M～3M物0.535%～0.750%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、8日に日銀金融政策決定会合議事要旨（3月18・19日分）の公表、海外では6・7日に米FOMC、6日に米貿易収支（3月）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ（%）
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.53 ～ 0.70
2M	0.55 ～ 0.75
3M	0.58 ～ 0.75
6M	0.65 ～ 0.80

<レポ>

足許GCIは、月末過ぎとなる週初+0.40%台前半から出合い始め、引けには+0.30%台まで低下した。30日の取引ではレートは上昇し、後場には+0.45%近辺で取引された。金融政策決定会合2日目となる翌1日には+0.47%～+0.48%の出合い、3m短国の発行があった週末は+0.49%まで取引され越えた。

SC取引は2年460～471回債、5年155～177回債、10年355～370回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ（%）
現先 (on/1w)	0.40台
CP 3M	0.55 ～ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約5,100億円で、週間償還額の6,800億円を下回った。発行残高は先週末時点の23兆6,440億円から、5月1日時点で23兆5,838億円に減少した。発行市場は、鉄鋼、石油製品で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、日銀の早期の利上げ観測が後退したことに加え、日銀の金融政策が据え置きになったことから、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では、0.50%台前半から0.50%台半ばでの出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%台半ばとなった。

来週の償還額は5,300億円となっている。発行市場は、大型連休明けの調達再開により、案件数の増加が見込まれる。1か月物に関しては0.50%台前半から0.50%台半ばでの出合い、3か月物に関しては0.50%台後半から0.60%台半ばと、横ばい圏での出合いを予想する。

<TDB>

2日の3M（1303回債）の入札は、最高落札利回り0.4249%（前回債0.3974%）、平均落札利回り0.4051%（前回債0.3793%）となった。

来週の入札は8日に6M、9日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。